

平成26年度 デイサービス部門 事業計画

基本方針

高齢化社会の中、在宅高齢者の支援拠点、また地域福祉の担い手としてデイサービスの果たすべき役割の自覚を持ち、「主役は利用者」であることを絶えず意識した、常に利用者の立場に立つ質の高い真のサービス提供を目指すとともに、ご利用者へのサービスを通して職員自身が喜びや感動を持つといった、高い利用者満足と職員満足を生み出す好循環の組織を創り出していくことを基本方針とする。

重点目標

①利用者のニーズへの迅速で真摯な対応と関係機関との連携の強化

ご利用者の個々のニーズに合わせたサービスを提供し、住み慣れた地域での生活が出来るよう、ご家族やケアマネージャー・主治医等の関係機関と連携して支援するとともに、地域の方からも信頼されるように努める。

②組織内の連携の強化及びサービス内容の充実

ご利用者と関わる時間を大切に、ご利用者が安全・安心して過ごせ、「楽しかった」「また来たい」と思ってもらえる時間作りを目指すとともにご家族に信頼して頂ける組織作りを目指す。

1. 日々のミーティング・職員会議の充実・見直しを行い、職員間のコミュニケーション・連携の強化を図るとともにチームケアの向上を目指す。
2. 機能訓練の充実
23年度より行っている機能訓練に関わる職員と音楽療法士、看護師とのミーティングを引き続き行い、更にサービス内容の充実を目指す。
3. レクリエーションの充実
 - ・個々のご利用者のニーズに合わせたもの、デイを利用される方全体の関わりと達成感を感じられるレクリエーションのプログラムの企画・実践。
 - ・1年を通じ、利用者に喜ばれる外出の企画・実践。(花見外出等)
4. 相談機関の充実
ご利用者とご家族の関係を総合的に考え、家族の身体的並びに精神的負担の軽減を図ることも重要な課題と認識し、ご利用者本人のみならずご家族の介護(生活)相談についても、生活相談員をはじめとするスタッフを配置し随時受付可能な体制をとる。
5. 利用者の満足度調査の実施。

③職員の資質向上

職員の資質向上のため、継続した育成と系統的内容の指導で、職員の質の向上を図る。

1. プロ意識を持った言葉遣い、気遣いを心がけるとともに、さわやかな笑顔と“心”のこもった接遇対応に努める。
2. 専門職としての資質向上を目指し、ご利用者へより良いサービスを提供する。

- ・ヒヤリ・ハットや事故報告を通じて介助技術の振り返り、見直しを行うとともに報告を生かした研修を行う。
- ・職員のアセスメント力を磨き、サービス提供の質を高めていく。
(ご利用者の声や表情、動作から真のニーズを探り、望む生活への支援やリスクの回避を図る)
- ・相談業務へ係るスタッフのスキルアップ。

④地域社会へのアプローチの強化

地域社会の一員として福祉の実情を捉え、地域福祉のニーズの掘り起こしを行い、その繋ぎ手、担い手となるよう努める。(出張体操、地域の活動・行事への積極的参加等)

⑤環境整備

ハード面の修繕・買い替えの計画を立てて修繕・購入を進めていく。

⑤その他

- ・後継者育成のため学生実習(社会福祉士・ヘルパー)の受け入れを積極的に行う。

学生実習の意義

1. 福祉教育の推進

後継者を育て、福祉を継続性のあるものにするためにも実習は大切であり、学校で学んだ理論・知識を実践の場において具体的に身につけることで、理論との統合が可能になる。また実習を通して福祉への理解を深め、地域社会における福祉理解の核となっていくよう期待する。

2. 施設の再点検

実習生の新しい目や感覚で見つめることにより職員の気がつかない課題の発見につなげる。

デイサービス部門主任：濱田 美穂子